きらぼし海外レポート

2024 年 1 月号

きらぼし銀行　海外戦略部

CONTENTS

❒ 上海駐在レポート　綺羅商務諮詢（上海）有限公司　小林
＜テーマ＞「中国ネット販売の変化」

❒ ベトナム現地レポート　KIRABOSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM　岩田
＜テーマ＞「ベトナムのコーヒー事情」

❒ 中国コラム
＜テーマ＞「中国企業との付き合い方～うさぎとかめ～」
北京博通行コンサルティング　福本　好成

❒ セミナーのご案内
「東南アジアセミナー：中国と繋がる東南アジア戦略を考える」
主催：　日中投資促進機構
共催：　きらぼし銀行、きらぼしコンサルティング、ほか地方銀行

❒ きらぼし銀行の海外ビジネスサポートネットワーク

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

ー上海駐在レポートー

「中国ネット販売の変化」

中国 EC 大手のアリババ集団傘下の EC サイト淘宝（タオバオ）は毎年 11 月 11 日（独身の日（ダブルイレブン））や 12 月 12 日（W12（ダブルトゥウェルブ））をターゲットに販促イベントを開催してきましたが、2023 年は W12 の開催を中止するなど EC サイトの取組みにも変化が出てきているようです。今月は変革が求められる中国ネット販売事情をご紹介させて頂きます。

○ W12 中止の背景

W12 のイベントはタオバオが 2012 年から個人や小規模企業の出店者の販売促進を目的として開催されてきたものです。中止の背景にはコロナ禍以降、中国人消費者の消費マインドの減退で節約志向が高まっていることに加え、W12 に限らず年中繰り広げられる EC 販促イベントに消費者が飽き始めていることが要因にあると見られています。また中国不動産市場の低迷や雇用不安等、中国経済が停滞する中、中国人消費者は単なる値下げ品を買い漁るのではなく合理的な買い物を追求するようになり、購買行動がコロナ禍前と大きく変わったことも背景にあると言われています。

○ タオバオ新たな商業戦略

タオバオは W12 を中止にした代わりに、「タオバオ年末価格祭」を 12 月 9 日から開催しました。年末価格祭のコンセプトは「良いものを良い価格で（好貨好価）」として、これまで W12 で繰り広げられていた単なる日用品の値下げ合戦から、ブランド品等の高級品を安価な価格で販売することとしています。例えば任天堂 Switch や iPhone15-ProMax などの高価商品が割引価格でラインナップされていました。

【タオバオ年末価格祭の広告】

このような戦略でタオバオは先述した合理的な買い物を行う消費者を囲い込み、京東や拼多多などの他の EC サイトとの差別化を図ることで、タオバオのブランド価値を高める狙いがあったようです。

○ 終わりに

コロナ禍以降、中国では消費者の消費マインドの変化により供給側の販売方法・戦略にも変革が求められていると感じます。以前のような爆買いは少なくなり、本当に必要で良質な商品が求められていく中で、今後の中国全体の BtoC 戦略がどのように発展していくか注目していきたいと思います。　以上

綺羅商務諮詢（上海）有限公司　小林

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

ーベトナム現地レポートー

「ベトナムのコーヒー事情」

ベトナムの食文化といえばフォーをはじめとした麺料理や生春巻き、ベトナム風サンドイッチのバインミーなどが有名です。そんなベトナムですが、世界有数のコーヒー生産国でもあり、アメリカ農務省のデータによると年間約 180 万トン（2023 年時点）の生産量を誇っています。今回のレポートではベトナムにおけるコーヒーの生産および、コーヒーショップの様子を紹介したいと思います。

○　ベトナムのコーヒー産業

冒頭に記載した通り、ベトナムは世界有数のコーヒー生産国で、ブラジルに次ぐ世界 2 位のコーヒー豆輸出国となっています。1850 年頃にベトナム北部にフランスからコーヒー栽培が伝わったことが始まりです。1980 年代に入り政府主導によりベトナム中部で大規模なプランテーションが開始されると、生産量が一気に伸び、栽培開始から約 20 年でコーヒー生産国の仲間入りを果たしました。特にロブスタ種の生産が盛んで、ベトナム国内で生産されるコーヒーのうち 95%はロブスタ種です。また、同種に限れば世界全体の 4 割をベトナムが占めています。ロブスタ種は病害虫に強い一方で、強めの苦みが特徴で、単体で飲むには少しクセが強いため、ブレンドやインスタントコーヒーなどに使われることが多くなっています。ベトナムで一般的な飲み方はこのロブスタ種を深めに焙煎し濃く抽出したものに、たっぷりの練乳やガムシロップを混ぜて飲むスタイルです。どちらかというとアメリカンコーヒーに慣れた方が多い日本人にとっては甘みが強すぎますが、ベトナム人は好んで飲んでいます。なお、コーヒーショップで練乳やガムシロップ抜きで頼むと、店員さんに本当に要らないのか確認され、案の定、苦すぎて飲めないという事態になります。

○　コーヒーショップ事情

世界有数のコーヒー豆輸出国でありながら、国内消費量は少なく、市場規模は約 678 億円（日本は 2021 年で約 3 兆円）と低い水準にあります。しかし、人口が 1 億人を超え、さらに増加していること、可処分所得の向上、国民の嗜好の変化などから成長が見込まれる分野でもあります。小規模な個人店やローカルのコーヒーチェーンの他、スターバックスをはじめとした外資系フランチャイズの参入も相次いでいます。2022 年にはベトナムのコングロマリットであるマサン・グループが約 380 億円を投資してカフェチェーンの株式を取得するなど、国内市場は今後激しい競争に直面すると予想されています。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

○　終わりに

今回はベトナムのコーヒー事情についてお伝えしました。世界第 2 位の輸出国でありながら、ベトナムのコーヒーはブレンドやインスタントコーヒーに使われることが多いため、目にする機会は少なかったかもしれません。しかし輸出、国内消費ともにコーヒー産業はベトナムを支える重要な産業の一つとなっています。ベトナム産の豆が使われている可能性もありますので、是非次回コーヒーを口にする際には、少しでも思い出してもらえると幸いです。

【伝統的なカフェ】

【バイクの荷台で販売されるコーヒー】

以上

KIRABOSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM CO.,LTD.

岩田

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

ー中国コラムー

「中国企業との付き合い方～うさぎとかめ～」

第一章　はじめに

私は、中国は北京にて【北京博通行コンサルティング】という会社を営んでおります福本と申します。私が初めて北京を訪問したのはNECに勤めている1996年でした、当時の北京はまだまだ未舗装の道が多く驚いたことを覚えております。それから僅か四半世紀で近代的な超高層ビルが立ち並ぶ大都会に変貌を遂げた北京を見るにつけ中国の底力を感じずにはいられません。

その後は時々出張などで来京しておりましたが、2011年に本格的に北京に赴任し、気が付くと既に12年の時を北京で過ごしております。この間、いろいろな日中両国の方々や企業と交流をさせていただき私なりに中国ビジネスのコツをつかんだと自負しております。

今回はその中でも中国とのビジネスを進める際のPOINTに関して延べ三回にわたって私見を述べさせていただこうと思います。本稿が皆様の中国関連業務推進の一助になれば幸いです。

第二章　【うさぎ】と【かめ】

皆様もよくご存じのこの寓話は、早さで優るが管理が不得意な【うさぎ】が堅実な歩みの【かめ】に競争で負けてしまうお話です。中国と日本の関係を見ると本当にこの寓話に似ているなと思うことがしばしばあります。ただし、寓話では【うさぎ】が負けてしまいますが現実世界での競争はまだ現在進行形の状況です。

さて、今年の九月に中国のHUAWEIが発表した携帯電話MATE-60-proに7nmの最先端半導体が組み込まれていることで世界が驚いたNEWSは皆さんも記憶に新しいことだと思います。アメリカの最先端半導体技術の輸出規制をかいくぐっての量産化はすごいものが有ると私も思います。実は私も以前半導体技術者として飯を食っていましたので分かるのですが、本件は技術的にはそう驚くべきことではありません。輸出が規制されていない旧TYPEの設備を使って手間をかければ7nmの半導体を作ることは可能です。

しかし実際にその技術を使って量産をしている会社はこれまで存在していませんでした。それはなぜかというとコスト的に見合わないからです。具体的には製品歩留まりが50%以下となり採算が取れないのです。更にこの技術を使っての量産化には相当長い時間が必要だと考えられていました。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

ところが、中国はこの技術を活用して、単なる試作品を作ったのではなく短期間で量産化を成功させた訳です（本件に関する技術とコストに関するお話はまた別の機会に譲りたいと思います）。

実は中国で仕事をしているとこの速度感にたびたび驚かされることが多いです。私も含めた日本の会社は事前検証や計画立案が大好きです、ところが中国の会社はこのような準備のプロセスが大嫌いです。やりもしないうちからあれこれ考えても意味がない、まずはやってみることが先決であるという考え方で仕事をします。日本のように先に問題点をつぶすのではなく、やっている最中で出てきた問題は都度何とかするといった発想です。この考え方で仕事を進めるのでその業務速度はものすごく速く、われわれ日本人は目が回ってしまうわけです。

しかし、ここで注意すべき点が有ります。それは、速度が速い反面、発生した問題への対応が刹那的であるという点です。発生した問題をその都度対応して解決するわけですが、その際に根本原因まで遡って対策を打つといった発想は在りません。更にその対策を系統立ててまとめて再発を防止するといった発想も皆無と言っていいでしょう。

この為よく発生するのが同じ問題の再発です。日本の企業では製造を繰り返すとだんだんと品質が向上するのが普通ですが、中国の企業に同じことを期待してはダメです。特に直接品質に影響を及ぼさないような軽欠点はいつまでたっても改善されません。

原因は簡単で、彼らがそれ（日本企業が言う問題点）を問題だとは全く思っていないからです。皆さんにも、口を酸っぱくして品質の改善を要求するのに相手は馬耳東風で全く対応してくれないといったご経験があるのではないでしょうか？正に速度は速いが管理力の弱い【うさぎ】さんですね。

さて次は【かめ】のお話をと思いましたが、主題から外れるので堅実すぎる【かめ】さん的な某国企業のお話はまた別の機会ということにさせてください。

第三章　【うさぎ】さんの飼い方

では我々はこのすばしっこくてどこに行くかわからない【うさぎ】さんとどのように付き合ったらよいのでしょうか？

１）まず重要なことは【情報の共有】です。

何か業務を実施する際にはその【目的】を明確にすることが重要な事は皆さまもご存じの通りです。特に中国企業相手の業務ではここが大切です、ここで勘違いが起きるととんでもない速度で思わぬ方向に業務が進むことになります。結果的に日本側が気付いたときにはとんでもない事態になっているといった事例をよく見てきました。取引を始めるときにはきちんと文書で製品の目的や各種要求事項を明確にして、説明を行い中国側に理解させてください。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

２）二番目は【禁止事項の明確化】です。

日本企業は性善説で仕事を進めますので、何か問題が発生するとそんなことは常識ですと言われる場面をよく見かけます。いちいち細かなことを指定しなくても常識の範囲で依頼先が業務を遂行してくれると思っているのです。しかし、この考え方は中国企業向けでは全く通用しないと考えてください。彼らは目的を達成するためであれば事前に禁止されていないことは何でもやっていいといった考え方をします。目的実現のために何でもやってくれますが、もちろん事前の変更通知なども有りません（結果上手く行けばいいのですが・・・）。

多くの場合、思いもよらないトラブルが発生し、これまた日本側がびっくりして、何を勝手に！と大激怒になる場合が多いです。つまり事前にやって欲しくないこと【禁止事項】をきちんと明確化し指示しておく必要が有るのです（それでもやっちゃう事例も多いのですが…）。

（参考）

ただ、問題が出なければどんどん進めるというのには有利な点が多いのも事実としてあります。
最近の中国 EV の発展などはこの典型です。実際に中国では法律が追い付かない速度で事が進む事例が多く、法律が後からついてくるのが常識（常態）です。まさにやってみてから考えることで今までは出来なかったことが実現されているといっても過言ではないのです。

３）三番目は【三現主義】の徹底です。

皆さんもよくご存じの内容だと思いますが、この現場、現物、現実を確認することが中国業務では日本以上に重要になります。今まで述べたように中国では予想もされないようなことが予想もできないようなスピードで進む（変化？）ことが常態ですので、常にこの三現を確認しておかないととんでもないことが起きます。とにかく会議などでの話を信用しないで現実を確認することが重要です。ただ、中国はお隣の国とは言え外国ですのでこの管理は、まさに言うは易く行うは難しとなります。
定期的に訪問しての確認はもちろん、定期的な品質会議を開催し、その中でも写真やビデオを活用しての現実確認を実施してください。よもや「細かいところは貴社にお任せしますのでよろしくお願いします」なんてことを口走って、あとはお任せなんてことは絶対ダメです。全権委任などしたらとんでもない事態を自ら招くようなものです、きちんと基本に基づいた業務推進を心がけましょう。

★最後にご提案です。

今回の話の趣旨はよく分かるけど具体的にどうやったらいいの？といった疑問をお持ちの方も多いと思いますので最後に以下のご提案をさせてください。このような問題のお薦めの解決方法は中国にある弊社のような日本側の事情をよく理解した上で中国企業に対応できるコンサル管理会社を活用されるのがとてもお勧めです。

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

弊社はお客様に代わって中国現地での【三現主義】を実行します。これによりご期待通りの結果を安価で安全に実現することが可能となります。もちろん、前出の【情報共有】や【禁止事項の明確化】といった重要なステップの実行にあたっても全面的なサポートが可能です。

更に、定期的に日本にも出張しておりますので貴社の中国関連業務に関する日本でのお手伝いも可能です。ご相談は無料で承っておりますので、今回記したようなお悩みがある場合は下記のいずれかの方法でご連絡をいただければ幸いです。

会社名：北京博通行商務諮詢服務有限公司（きらぼし銀行上海現法提携先）
連絡先：総経理　福本　好成
Mail:fukumoto@hakutsukoh.com
TEL：+86-138-10466811（私の携帯ですので日本語対応です）
URL：http://bj-hakutsukoh.com/
所在地：中華人民共和国北京市朝陽区

以上、今回は中国企業の特徴と付き合い方に関してその POINT をご説明をさせていただきました。次回は【中国企業の持つ国際規格、その意味と現実】に関して事例を含めてご説明して行こうと考えておりますのでご期待ください。

以上

北京博通行コンサルティング　福本　好成

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

―セミナーのご案内―
＜『東南アジアセミナー：中国と繋がる東南アジア戦略を考える』＞

今回、日本企業の中国投資を支援する一般社団法人日中投資促進機構と共催し、中国ビジネスを考えるうえで切ることができない、東南アジアにスポットを当て、現地からみた市場・経済動向及び中国から見た東南アジアの投資状況について語っていただくオンラインセミナーを開催いたします。皆様のお申し込みをお待ちしております。

【開催概要】

■日時： 2024 年 2 月 22 日（木） 日本時間 10:00～12:00

■形式： オンライン Zoom

■定員： 500 名 （先着順）

■参加費： 無料

■申込方法： 下記 URL より必要事項をご記載のうえ、お申し込みください。

https://x.gd/X5uiM

■申込締切： 2024 年 2 月 20 日（火）

■主催：日中投資促進機構 共催：きらぼし銀行、きらぼしコンサルティング、ほか地方銀行

■プログラム：

講師 3 名をお招きし、東南アジアにスポットを当て、現地からみた市場・経済動向及び中国から見た東南アジアの投資状況について語っていただくパネルディスカッション形式。

・講演① 日系企業からみた東南アジア市場

・講演② 東南アジアの経済動向

・講演③ 中国企業からみた東南アジア投資

ご登壇者紹介（順不同）

○ YKK 株式会社 営業本部長 兼 YKK CORPORATION OF VIETNAM Co.,LTD 社長 敷田 透 氏

○ みずほ銀行（中国）有限公司副行長 兼中国営業第四部 部長 丸木 健太郎 氏

○ PT. MHCT Consulting Indonesia / Marketing Director 関山 貴利 氏

■お問合わせ：

日中投資促進機構 事務局

〔電 話〕03-5545-3118

〔E-mail〕seminar1@jcipo.org

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

きらぼし銀行　海外ビジネスサポートネットワーク

きらぼし銀行海外 4 拠点の概要

上海：綺羅商務諮詢（上海）有限公司 《きらぼし上海》	
住　所	中華人民共和国上海市黄浦区淮海中路918号久事復興大厦24－C1室
ウェブサイト	http://www.kiraboshi-bc.com.cn/
北京：信銘冠嘉商務諮詢（北京）有限公司 《北京合弁会社》	
住　所	中華人民共和国北京市大興区金盛大街二号院五号楼1階101－32
ホーチミン：KIRABOSHI BUSINESS CONSULTING VIETNAM COMPANY LIMITED 《きらぼしベトナム》	
住　所	Unit 6A Level 6, Saigon Centre, Tower 1, 65 Le Loi, Street, Ben Nghe Ward, District 1, Ho Chi Minh City, VIETNAM（サイゴンセンター6 階）
ウェブサイト	https://kiraboshi-bc.com.vn/
タイ：Kiraboshi Bank, Ltd., Bangkok Representative Office 《きらぼし銀行　バンコク駐在員事務所》	
住　所	689 Bhiraj Tower at EmQuartier,Unit 3065, Level 30, Sukhumvit Road, Khlong Tan Nuea Subdistrict, Watthana District, Bangkok 10110, Thailand

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。

業務提携先

《海外提携銀行》

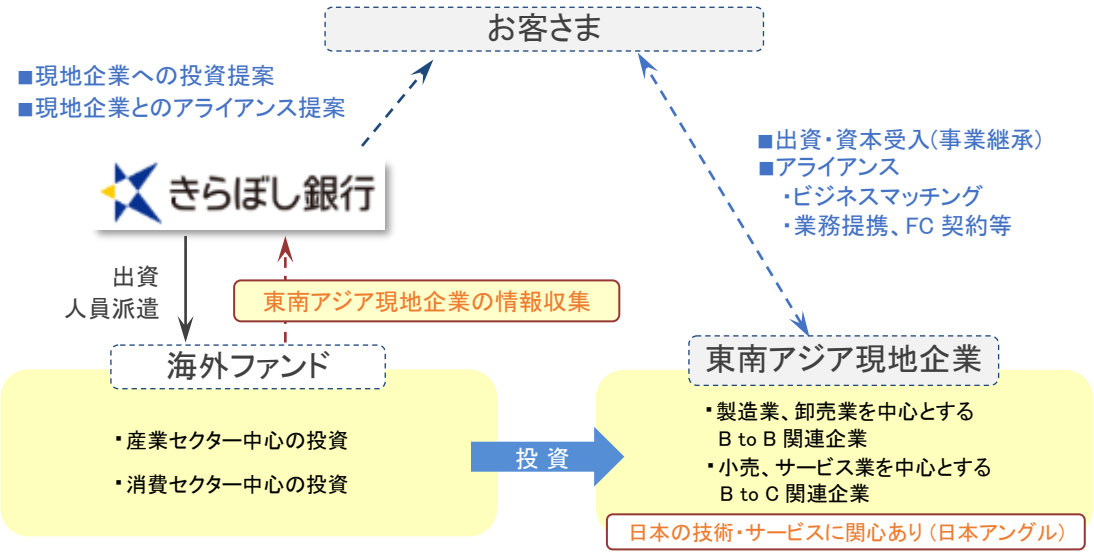
タイ・・・・・・・・・・	カシコン銀行	インド・・・・・・	インドステイト銀行
ベトナム・・・・・・	ベトナム投資開発銀行	フィリピン・・・	メトロポリタン銀行
インドネシア・・・	バンク・ネガラ・インドネシア	韓国・・・・・・・	SBJ 銀行

《提携行政機関》

独立行政法人日本貿易振興機構、独立行政法人国際協力機構、株式会社日本貿易保険

海外ファンドを通じたサポート

取引先の海外バイアウトやアライアンスのニーズに対応すべく、海外現地ファンドへの LP 出資や GP への人員派遣を実施しています。



お問い合わせ

きらぼし銀行　海外戦略部

- 電　話・・・・・・・・　03-6447-5828
- E-mail ・・・・・・・・・i580@kiraboshibank.co.jp
- 担　当・・・・・・・　吉田、児玉、木村、武、

【２０２４年１月現在】

本レポートに記載の事項は情報提供のみを目的としたものであり、記載されているデータ、意見などはきらぼし銀行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当レポートに記載された内容が事前連絡無しに変更されることもあります。当レポートに記載された条件などはあくまで仮定的なものであり、かかる取引に関するリスクを全て特定・示唆するものではありません。事業展開の最終決定は貴社ご自身の判断でなされるよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などに御相談の上でお取扱下さいますようお願い致します。